



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 37 No. 4
August 2012**

毒理学ニュース

日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

- 第 15 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験 61
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書 63
認定試験受験資格のための評点表 65
第 40 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報) 67
2013 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領 68
2013 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領 68
第 39 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について 69
第 51 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①
- 教育コースへの参加 - 70
第 51 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②
- 第 51 回 SOT に参加して - 71

その他のお知らせ

- 第 6 回応用トキシコロジー リカレント講座開催案内 (第 1 報) 72
第 19 回日本免疫毒性学会学術大会 (JSIT2012)
第 61 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会 合同開催 72
チトクロム P450 発見 50 周年記念シンポジウム 73
フォーラム 2012: 衛生薬学・環境トキシコロジー 73

求人広告

- 住友化学株式会社 75

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

入会案内/変更手続き

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第 15 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

認定試験小委員会委員長

広瀬 明彦

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は J. Toxicol. Sci. またはホームページに掲載の「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の 10 日前までに受験票をご本人宛送付いたします。

試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日 時

2012 年 9 月 30 日 (日) 9:15 ~ 16:30

2. 会 場

昭和大学 4 号館 600 号

(東京都品川区旗の台 1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩 5 分

3. 出願期間

2012 年 7 月 2 日 (月) ~ 8 月 14 日 (火) (必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2 枚 (縦 3.5cm × 横 3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・ 会員歴：本年度は原則 2009 年以前に入会された方

(途中退会歴の取り扱いは問い合わせ先まで)

・ 研究歴

詳細は「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの (書留、宅配等) でお送り下さい。

5. 受験料

30,000 円 (下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. トキシコロジー参考図書に関する留意点

日本毒性学会教育委員会編集の「トキシコロジー」(朝倉書店) は 2009 年に改訂されておりますので、ご留意下さい。第 1 版と第 2 版については正誤表が学会ホームページに掲載されておりますので、確認をお願いします。

7. 出願書類送付先・問い合わせ先

日本毒性学会 教育委員会

認定試験小委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35

信濃町煉瓦館 (財)国際医学情報センター内

TEL: 03-5361-7075 / FAX: 03-5361-7091

e-mail: educ-group@umin.ac.jp

第 15 回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真添付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入ください)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな

氏 名： _____

会員番号： _____

生年月日：西暦 年 月 日

所属機関： _____

職 名： _____

日本毒性学会会員歴：西暦 _____ 年入会（継続 _____ 年）

学 歴：

西暦 _____ 年 _____ 高等学校 _____ 科卒業

西暦 _____ 年 _____ 大学 _____ 学部 _____ 学科卒業

西暦 _____ 年 _____ 大学院 _____ 研究科 _____ 課程修了

職 歴／毒性研究・研究歴（種類，期間）：

受験票送付先：〒

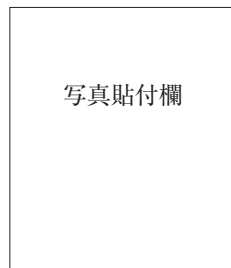
住 所

電話：

FAX：

E-mail：

（お持ちの方は必ずご記入下さい）



切
り
取
り
線

認定試験受験資格のための評点表

「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」の付表（脚注に注意）を参考にして自己採点の上、下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお、下表中の論文についてはそのコピーを、学会等参加については参加証のコピーを、学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを、また、講習会については参加証のコピーを、それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏 名：

所属機関：

| 種 別 | 評 点 項 目 | 評 点 |
|--------------------------|-------------------------|----------|
| 論 文 | 毒性学関連論文 ¹⁾ | |
| 学 会 活 動 | JSOT 学会 | 発表 |
| | | 参加 |
| | JSOT 認定学会 ²⁾ | 発表 |
| | | 参加 |
| JSOT 認定講習会 ³⁾ | | |
| JSOT 主催講習会 | 基礎教育講習会 | 1998 年以降 |
| | | 1997 年以前 |
| | 生涯教育講習会 | |
| 合 計 | | |

1) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

2) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会

3) 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等

切り取り線

第40回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

1. 日時

2013年6月17日（月）～19日（水）

2. 会場

幕張メッセ 国際会議場
〒261-0023 千葉市美浜区中瀬2-1
電話：043-296-0001（代表）

3. テーマ

「医療・環境から学び、医療・環境へと還元する毒性学」

4. 年会長

上野 光一（千葉大学大学院薬学研究院）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

石塚真由美（北海道大学大学院）
大石 了三（九州大学病院）
大野 泰雄（国立医薬品食品衛生研究所）
小野寺博志（医薬品医療機器総合機構）
鍛冶 利幸（東京理科大学）
菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）
北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）
熊谷 嘉人（筑波大学）
菅井象一郎（日本たばこ産業株式会社）
杉山 雄一（理化学研究所）
鈴木 勉（星薬科大学）
鈴木 雅実（中外製薬株式会社）
津田 修治（岩手県環境保健研究センター）
遠山 千春（東京大学大学院）
苗代 一郎（武田薬品工業株式会社）
中村 和市（塩野義製薬株式会社）
永沼 章（東北大学大学院）
西川 秋佳（国立医薬品食品衛生研究所）
野村 護（株式会社イナリサーチ）
茨田 享子（協和発酵キリン株式会社）
広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）
堀井 郁夫（ファイザー株式会社）
眞鍋 淳（第一三共株式会社）
務台 衛（田辺三菱製薬株式会社）
山添 康（東北大学大学院）
吉田 武美（薬剤師認定制度認証機構）

6. 一般講演演題募集

口演およびポスターでの発表
2012年11月末から受付する予定です。
発表は会員のみとなりますので非会員の方は、毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
<http://www.jsot.gr.jp/> 日本毒性学会

7. 若手優秀研究発表賞

2013年6月17日の時点で40歳未満の方を対象として候補者を募集いたします。

8. 特別企画

特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ
市民公開セミナーを企画予定です。

9. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー，広告掲載，展示
出展を募集いたします。詳細については追ってご案内いたします。

10. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページから登録していただきます。
詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.ipec-pub.co.jp/jsot2013/>

11. 年会事務局

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学研究室
山浦 克典
電話：043-226-2878 FAX：043-226-2879
E-mail：jsot2013@ML.chiba-u.jp

2013 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2013 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2013 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.gr.jp/>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot@imic.or.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2012 年 12 月 31 日（月）

2013 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2013 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2013 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.gr.jp/>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot@imic.or.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2012 年 12 月 31 日（月）

第 39 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 39 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

| | |
|----------|----------------|
| 振込先：口座番号 | 00150-9-426831 |
| 口座名 | 日本毒性学会 |
| 要旨集価格 | 3,500 円（1 部） |

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号

④第 39 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館

（財）国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 FAX：03-5361-7091

E-mail：jsot@imic.or.jp

第51回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① — 教育コースへの参加 —

住友化学株式会社 生物環境科学研究所 於勢 佳子

サンフランシスコの Moscone Convention Center で2012年3月11～15日に開催されたSOTに、日本毒性学会のご好意の下、その派遣事業の一環として参加させて頂いた教育コースについて簡単に報告する。

参加した教育コースは① Stem cells in Toxicology (Basic) および② microRNA in Biology and Toxicology (Basic) で、いずれも総論としての基礎的な内容から最近の研究成果や今後の展望を網羅する多彩な構成内容で、初心者にも理解しやすく、研究領域を俯瞰する意味でも非常に有意義なものであった。

Stem cells (幹細胞) は種々の細胞に分化する能力 (多分化能) と細胞分裂を経ても多分化能を維持する能力 (自己複製能) を併せ持つ細胞で、近年、再生医療の分野で特に注目され、毒性分野でもその活用が始まっている。総論では Stem cells の起源による分類 (胚性幹細胞 (ES 細胞)、体性幹細胞および iPS 細胞) について、また、Stem cells の転写調節やシグナル伝達に加えて、分化能やスループット性についての包括的な解説があった。各論では最新の研究内容を交えて Stem cells の性質を持つ癌幹細胞が癌の発生と進行に関わるとする癌幹細胞仮説や Stem cells の安全性試験への応用について概説された。

microRNA (miRNA) は蛋白質をコードしない低分子 RNA で、他の遺伝子の発現調節に関与すると考えられている。今回の教育コースでは miRNA の産生機序やその分離・定量法に加え、ストレス応答、発達毒性や発癌における miRNA の発現とそのプロファイリングについての解説があり、さらに、その毒性予測への応用についても概説された。

安全性試験においては、繁殖毒性、神経毒性、発癌性、心毒性、肝毒性などで Stem cells の応用研究が精力的に行われている。加えて、毒性マーカーとして miRNA の活用性が高まれば、そのスループット性のみならず動物愛護の観点からも有用かつ強力なツールとなることは間違いなく、かなりの期待が寄せられる分野であった。

今回、このように新たな分野を体系的に学ぶ機会が得られたことは大変有意義であり、今後は最新の情報を収集すると共に、自身の研究活動への応用も考えていきたい。

最後になりましたが、今回 SOT への参加の機会を与えて下さいました日本毒性学会に深く感謝いたします。



第51回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② — 第51回 SOT に参加して —

エーザイ株式会社 筑波安全性研究部 森山 智之

2012年3月11日から15日まで、第51回 Society of Toxicology (SOT) が、米国サンフランシスコ市のモスコニコンベンションセンターにて開催され、SOT 教育コース派遣者（日本毒性学会）として参加の機会に恵まれたので、所感を交えて報告する。なお、教育コースの内容については別の機会に紹介させていただく。

今回の SOT では、以下の4つが大きなトピックとして取り上げられていた。

- ① 毒性や病態における遺伝子発現の異常（エピジェネティクスをターゲットとした創薬とその安全性評価。毒性バイオマーカーとしてのマイクロ RNA の利用。発がんにおけるエピジェネティクス及びマイクロ RNA の役割など）
- ② 毒性メカニズム（心毒性予防のための分子生物学的基礎。ナノマテリアルの in vivo/in vitro 毒性試験法とその予測性。ライソゾーム関与の毒性など）
- ③ クリニカルトキシコロジー（サプリメントの品質問題とヒトの健康に対する影響。イメージング技術の臨床・非臨床試験への応用。薬物誘発性肝障害など）
- ④ レギュラトリーサイエンス（毒性試験における新技術の導入とその規制当局の受け入れ。バイオシミラーの開発とレギュレーションなど）

その他として、東日本大震災から1年経過したが、未だ世界中が注目する「原発事故」について、「Fukushima Radiation Toxicity」というポスターセッションが設けられていたのも特徴であった（雑感となるが戦争時には化学兵器に関するポスターが多いなど、トキシコロジーの分野においてもその時々を反映していると改めて感じた）。個人的には、中国 GLP の現状（規制、施設、海外規制当局によるデータの受け入れ）を FDA と SFDA の両側面から紹介されたセッションも興味深かった。

SOT はトキシコロジーの分野では最も大きな学会であり、最先端のトキシコロジーサイエンスのみならず、米国当局の考えや規制の動向を直接感じ取り情報収集することのできる大変貴重な場であると感じた。また、滞在中天候には恵まれなかったが、霞がかかったゴールデンゲートブリッジ、フィッシャーマンズワーフでのシーフード、名物のケーブルカーなどなど、霧と坂の街サンフランシスコも十分に堪能させていただいた。

最後に、SOT 参加という貴重な機会を与えていただいた日本毒性学会理事長 菅野純先生、教育委員会委員長 鍛冶利幸先生並びに事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。



その他のお知らせ

第6回応用トキシコロジー リカレント 講座開催案内 (第2報)

本講座は産業界、規制当局、アカデミアにおいて安全性研究にたずさわる研究者を対象にして、創薬から申請までの医薬品安全性評価の実際について最新の研究から実務に関する話題まで、幅広く勉強する場を提供することを目的としております。

6回目の開催となります本年は、平成24年9月6日と7日の2日間、大阪国際会議場にて開催いたします。多数ご参加いただけますようご案内申し上げます。

なお、本講座は日本毒性学会認定トキシコロジスト制度の認定講習会となっております。

期 日 2012年9月6日(木)～7日(金)2日間

場 所 大阪国際会議場
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51
<http://www.gco.co.jp/index.php>

主 催 大阪市立大学大学院 医学研究科
都市環境病理学 教授 鰐淵 英機

協 賛 日本毒性学会
後 援 日本製薬工業協会

プログラム予定

9月6日(木)

- 10:00 - 10:05 開講挨拶
10:05 - 11:00 gpt δラットを用いた遺伝毒性・発がん性の包括的リスク評価モデルの確立
(大阪市立大学 鰐淵英機)
11:00 - 12:00 遺伝子と環境：遺伝毒性の基礎
(基盤研 能美健彦)
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 15:15 医薬品の遺伝毒性評価法における課題
(国立衛研 本間正充)
－ パネルディスカッション
(国立衛研 本間正充, 大阪市立大学 鰐淵英機, 基盤研 能美健彦, アステラス製薬 若田明裕, あすか製薬 久田茂)
15:30 - 17:00 安全性評価のためのバイオマーカーの調査研究
(国立衛研 大野泰雄, 久光製薬 高橋光一, 日本たばこ 小林章男)
17:30 - 19:30 意見交換会 (リーガロイヤルホテル)

9月7日(金)

- 10:00 - 11:00 眼毒性と眼検査
(アボット 佐々木正治)
11:00 - 12:00 iPS細胞の医薬品安全性評価への応用:
(阪大, 基盤研 水口裕之)
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 14:00 医薬品の環境影響評価のポイント
(化評研 関 雅範)
追加発言
(アストラゼネカ 東 泰好)
14:00 - 16:00 医薬品の承認申請と安全性評価:
事例研究
座長: 小野寺博志(総合機構), 佐神文郎(エーザイ)

参加費 ¥30,000 (資料代, 意見交換会参加費を含む)

申込み方法

1. お名前, 2. フリガナ, 3. ご所属, 4. E-mail アドレスを, e-mail または Fax で下記までお申込みください。
追ってe-mailにて参加費振り込み方法をお知らせします。振り込み確認をもって参加登録とさせていただきます。なお、一度振り込んだ参加費はお返しできませんので、その場合は代理の参加をお願いします。

申し込み・問い合わせ先

大阪市立大学大学院 医学研究科
都市環境病理学 教授 鰐淵 英機
E-mail: recurrent2012@med.osaka-cu.ac.jp
Fax: 06-6646-3093

第19回日本免疫毒性学会学術大会 (JSIT2012)

第61回日本産業衛生学会アレルギー・ 免疫毒性研究会

合同開催

日本免疫毒性学会の第19回学術大会を下記の要領で開催いたしますので、ご案内申し上げます。

期 日 平成24年(2012年)9月15日(土)～16日(日)

会 場 東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂
東京都港区西新橋3-25-8
(交通: JR新橋駅徒歩12分, 地下鉄都営三田線御成門駅徒歩3分)

テーマ 免疫毒性疾患の新しい様相

内 容

特別講演 1 :

「Overview and Application of the WHO/IPCS Harmonized Guidance for Immunotoxicity Risk Assessment for Chemicals」

Henk van Loveren

(Professor of Immunotoxicology Laboratory for Health Protection Research, National Institute of Public Health and the Environment)

特別講演 2 :

「免疫毒性研究の温故知新—免疫毒性学会の発足経過と20周年への提言」

大沢 基保 (食品薬品安全センター 秦野研究所)

教育講演 1 :

「AIM (Apoptosis Inhibitor of Macrophage) がひも解く生活習慣病としての自己免疫疾患」

宮崎 徹

(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター 分子病態医学)

教育講演 2 :

「疲労の分子機構と免疫毒性との関係」

近藤 一博 (東京慈恵会医科大学ウイルス学講座)

シンポジウム :

「免疫毒性学研究的の進歩」

坂部 貢 (東海大医学部基礎医学系生体構造機能学領域)

石渡 賢治 (東京慈恵会医科大学熱帯医学講座)

西村 泰光 (川崎医科大学衛生学教室)

試験法ワークショップ : 「In vitro immunotoxicology」

Emanuela Corsini (University of Milan, Italy)

坂口 齊 (花王)・足利太可雄 (資生堂)

相場 節也 (東北大学大学院医学研究科)

Ai-Young Lee (Dongguk University, South Korea)

一般演題 (口演・ポスター)

* 年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」並びに「学生・若手優秀発表賞 (30歳以下)」を贈呈します。

一般演題発表形式 PC プロジェクターによる口頭発表とポスター発表

年会長 柳澤 裕之 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座

事務局

宮越 雄一, 小岩井 利一

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座内

第19回日本免疫毒性学会事務局

TEL : 03-3433-1111 (内線 2266)

FAX : 03-5472-7526

e-mail : jsit19@jikei.ac.jp

学術大会 HP: <http://jsit19.umin.ne.jp>

**チトクロム P450 発見 50 周年記念
シンポジウム**

日 時 2012年12月2日(日)~2012年12月3日(月)

会 場 福岡市, 九州大学コラボレーション I

主 催 チトクロム P450 発見 50 周年記念シンポジウム
実行委員会

主な題目 P450 Structure and Function, P450 Practical Application, Gene Regulation, Drug Metabolism

招待講演者名

Rita Bernhardt (Saarland University, Germany), Bon-Chu Chung (Institute of Molecular Biology, Taiwan), F. Peter Guengerich (Vanderbilt University, USA), Thomas L. Poulos (University of California, USA), Jae Gook Shin (Inje University, Korea), Michael R. Waterman (Vanderbilt University, USA).

参加費 一般 5,000 円, 学生 2,000 円

懇親会費 一般 5,000 円, 学生 3,000 円

詳 細 <https://sites.google.com/site/50thp450jp/>

連絡先 チトクロム P450 発見 50 周年記念シンポジウム
実行委員会 永野真吾
(鳥取大学) 50th.Anniv.P450@gmail.com

**フォーラム 2012 :
衛生薬学・環境トキシコロジー**

主催団体 日本薬学会 環境・衛生部会

代表者 小嶋仲夫 (名城大学薬学部 衛生化学研究室 教授)

テーマ 生命プログラムの最適化と健康寿命

開催趣旨

本フォーラムは健康と環境に関わる大学, 行政, 民間等の研究者が一堂に会し, 最新の知見について報告し, 意見を交換することにより自己の研鑽に努めるとともに, 海外も含め広く社会に貢献することを目的としております。特に, 最近大学院生および学部学生を中心とする若手研究者の本フォーラムでの発表が増加しており, さらにはアジアから韓国の衛生薬学研究者も必ず参加するという非常に活発な研究会となっております。

開催日程 2012年10月25日(木), 26日(金)

開催場所 名古屋観光ホテル

(〒460-8608 愛知県名古屋市中区錦一丁目19-30)

事前参加 2012年7月30日(月)~9月7日(金)

演題締切 2012年7月23日(月)

要旨締切 2012年8月13日(月)

表 彰 学会賞や優秀若手研究者賞・フォーラム実行委員長賞への応募および各種手続の詳細は部会ホームページ参照。

http://bukai.pharm.or.jp/bukai_kanei/

事務局

名城大学薬学部 衛生化学研究室内

〒468-8503 名古屋市天白区八事山 150

Tel: 052-839-2677

Fax: 052-834-8090

E-mail: eiseiforum2012@gmail.com

住友化学株式会社 生物環境科学研究所 安全性評価研究職 募集要項

生物環境科学研究所では現在、安全性評価研究者を募集しています。

| | |
|---------|---|
| 職 種 | 安全性評価研究職 |
| 仕事内容 | 農薬，一般化学物質の安全性評価研究，新規安全性評価技術開発 |
| 応募資格・要件 | 理系学部卒以上，原則として3年以上の安全性評価研究あるいは GLP 毒性試験の実務経験を有する者（トキシコロジスト，毒性病理学専門家，生殖発生毒性専門家などの資格を有することが望ましい） |
| 雇用形態 | 正社員 |
| 給 与 | 当社規定により優遇 |
| 待遇・福利厚生 | 昇給年 1 回，賞与年 2 回（原則として 6・12 月）、各社会保険完備、退職金、年金制度、持株会、交通費全支給，寮・社宅は当社規定にもとづき貸与，保養所，スポーツ施設あり |
| 休日・休暇 | 週休 2 日制（年間休日 124 日），有給休暇，結婚休暇，忌引休暇等 |
| 勤務時間 | フレックスタイム制（コアタイムなし），1 日の標準労働時間 7 時間 5 0 分 |
| 勤 務 地 | 住友化学株式会社 生物環境科学研究所（大阪市此花区） |
| 応募方法 | 履歴書，職務経歴書を郵送または e-mail にて下記担当者まで送付ください。 |
| 応 募 先 | 〒 554-8558 大阪市此花区春日出中 3-1-98 住友化学株式会社 大阪工場 総務部（人事）採用担当 S 係 宛て tel：06-6466-5043 / fax：06-6466-5463 e-mail：kankei-saiyou@ya.sumitomo-chem.co.jp ※秘密厳守、応募書類不返却 ※個人情報を選考目的以外に使用いたしません。 |
| 募集締め切り | 随時選考を行い，定員に達し次第締め切ります。 |

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性とその発現機構, 生体応答, 安全性評価, 分析法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicogenomics/proteomics Report: 刷り上がり3頁以内。毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群(または蛋白質群)に関するデータ(DNAアレイ分析の結果など)や毒性発現に影響を与える遺伝子(または蛋白質)の同定などが該当する。DNAアレイ分析結果などは1つの物質について1論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は1つの遺伝子について1論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果(ネガティブデータでも可)なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (5) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4判に上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文

字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。

- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行しない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, \AA , μg , mg, g, kg, μl , ml, l, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith et al., 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができ、Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 薬物中毒 C8 薬物依存性 C9 細胞毒性 C10 酸化ストレス C11 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 オミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」（1964年発行、2002年改訂：<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>）の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genomeshishin/）に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした

論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 投稿原稿の送付

原稿はオンライン投稿システム（<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>）から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーシート（日本語可）を添付することができる。

7. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

8. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

9. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

| | 掲載料（円／頁） | カラー写真 ^c （円／頁） |
|---------------------|---------------------|--------------------------|
| Original Article | 6,000 | 40,000 |
| Letter | 12,000 ^a | 40,000 |
| Report ^b | 16,000 | 40,000 |
| Special Issue | 20,000 | 40,000 |
| 招待総説 | 無料 | 20,000 |

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：Toxicogenomics/proteomics Report。 ^c：図等も含む。

入 会 案 内

1. 「日本毒性学会会則」を熟読の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.gr.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
入会にあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は、評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。評議員については「評議員リスト」(https://toxicol.org/users/councilor_list)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
 2. 入会受付後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
 3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
 4. 本会の年度は1月1日から12月31日です。
 5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年の機関紙No.1からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
 6. 年会費および会員の種別は次の通りです。
一般会員 7,000円
学生会員 3,000円
- * 本年度入会希望の方は、12月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「登録情報確認・変更ページへ」から手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「退会申請ページへ」より手続きを行って下さい。

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

平成 9 年 7 月 24 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正
平成 21 年 7 月 5 日改正
平成 23 年 1 月 14 日改正
平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は化学物質の毒性試験に関する基準（GLP）の施行に伴う安全性試験の信頼性確保の重要性に鑑みて、わが国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、JSOT 認定トキシコロジストの認定制度を設けて、質の高い専門家を認定する。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会（以下試験委員会という）を設置する。試験委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は試験委員会が行い、認定は理事会が行う。
- 書類審査の基準は次の通りとする。
 - 出願時に3年以上継続してJSOTの会員であること。
 - 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に

計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等については事務局に事前に問い合わせること。

- 別表の受験資格評点基準に従って総合点が80点以上に達していること。
 - 上記のうち、基準に満たない要件があるものについても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
 - 受験料は3万円とする。
 - 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. その他

この規約の変更は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

| 種別 | 評点項目 | 参加 | 発表 ¹⁾ |
|------------|----------------------------------|--------|------------------|
| 論文 | 毒性学関連論文 ²⁾ | | 10 (5) / 編 |
| 学会活動 | JSOT 学会 | 10 / 回 | 10 (5) / 回 |
| | JSOT 認定学会 ³⁾ | 5 / 回 | |
| | JSOT 認定講習会 ⁴⁾ | 5 / 回 | |
| JSOT 主催講習会 | 基礎教育講習会 (1998 年以降) ⁵⁾ | 40 / 回 | |
| | 生涯教育講習会 | 5 / 回 | |

- 発表におけるかっこ内数字は筆頭者でない共同発表の点数を示す。
- レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会
- 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 1997 年以前の参加は 10 / 回

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定
 平成 15 年 7 月 19 日改正
 平成 19 年 1 月 16 日改正
 平成 21 年 7 月 5 日改正
 平成 23 年 1 月 14 日改正
 平成 24 年 1 月 1 日改正
 平成 24 年 7 月 5 日改正

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規定に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時にも JSOT 会員であること
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に別に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新申請時において、以下の採点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加してはならない。但し、65 歳* 以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される。（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する。*:更新年の 12 月 31 日に 65 歳である者）
 - (4) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80% 以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては一回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80% 以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員会委員長を経て認定試験小委員会に審査を委嘱する。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を教育委員会委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料（当分の間 2 万円）を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 細則の変更は認定試験小委員会の議をへて、理事会の承認を得る必要がある。

付則：平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

評 点 基 準

| カテゴリー | 評 点 項 目 | 評 点 | 上限 (5 年間) |
|-------|---|--------|-----------|
| I | 認定試験の問題作成 | 20 / 回 | 80 |
| II | 学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 ¹⁾ 参加 / 発表 | 5 / 回 | 25 |
| III | JSOT 公認講習会 ²⁾ (講師を含む) | 5 / 回 | 25 |
| IV | 毒性学関連論文 ³⁾ | 5 / 編 | 25 |

- 1) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会
- 2) JSOT 基礎教育講習会・生涯教育講習会, 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 3) レフリー制度が整っている学術誌に限る

2012年8月1日 印刷

2012年8月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 永沼 章

発行所 日本毒性学会

編集部 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野内
TEL (022) 795-6870 FAX (022) 795-6869
E-mail : jts-ed@jtoxsci.org

学会事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
財団法人 国際医学情報センター内
日本毒性学会事務局
TEL (03) 5361-7075 FAX (03) 5361-7091
E-mail : jsot@imic.or.jp

振替 00150-9-426831

ホームページ <http://www.jsot.gr.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161